

これがオススメ! 読み聞かせ本

低学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。



ちいさなヒッポ

マーシャ=ブラウン／作
内田莉莎子／訳
(偕成社)

長く読み継がれている外国の絵本は、絵はもちろんのこと、心地よい言葉やわくわくする文章で翻訳されています。今回は、内田莉莎子さん訳の絵本『ちいさなヒッポ』を紹介します。

表紙の楽しそうなカバの親子と見返しのピンク色を基調とする川の様子が、森の奥にいる気分させてくれます。「グアオ」というカバの鳴き声や「おんにちは」「たっけて」というかわいい言葉つかいは、低学年の子どもたちを惹きつける魅力ある言葉です。

カバのヒッポは生まれた時からお母さんといつも一緒。だから、何があっても安心。しかし、そんなヒッポも、赤ちゃんのみまではいられません。ひとりでの外の世界に行けるように、カバの言葉を覚えなくてはいけない時がやってきました。

入学間もないある日の朝、読み語りが始まっても母親との別れが寂しくて教室の隅で泣いている子。いつもより大げさに声の調子を変えて読み始めてみると、ちらちらと視線が本へ。クライマックスの場面になると、とうとう我慢しきれずみんなが座っているとところまでやってきました。どうやら、自分とヒッポを重ね合わせて聞いていたようです。本を通して、子ども心に、「お母さんと離れていても大丈夫」という安心感が生まれたのだと思います。

子どもたちは、主人公が冒険をするお話が大好きです。自分を登場人物に置き換え、物語の世界で起こる様々な出来事を体験しているのです。読み終えた時に、子どもの背中をそっと押してくれたり勇気をくれたりする本を選んでいきたいですね。